





フェンスAB 2段柱 (V0=34m/秒 柱2mピッチ対応仕様)

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。



■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

安全に関する記号と説明

-  **警告** ・取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。
-  **注意** ・取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれのある内容を示します。

情報に関する記号と説明


-  **お願い** ・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
-  **補足** ・説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

ネジ等の締結部品の記号


ネジやナット等の締結部品を記号で示しています。(例：1a、1b、2c等)
締結部品の種類は「各ページの右上」または「**梱包明細表**」を参照してください。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

□ 施工の前に

-  **警告**
 - フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。特に崖上や高台など、転落してケガをするおそれのある場所へは施工しないでください。

-  **注意**
 - 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。

-  **お願い**
 - 施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に十分確認をしてください。
 - 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
 - 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
 - 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
 - 給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化の原因になります。

施工上のご注意

注意

- 現場でブラケットや継手を組付け・締結する場合は、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故のおそれがあります。
- 柱と本体ジョイント部の間隔は50～300mm以内で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。
- 2段柱基本寸法表の柱ピッチを守って施工してください。それ以上離れると製品強度が維持できなくなります。
- ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記締付けトルクで固定した後ゆるみがないか確認してください。
 $\phi 4/M4$ ネジ：樹脂 $1.0N \cdot m \pm 0.5N \cdot m$ ($10 \pm 0.5kgf \cdot cm$)、樹脂以外 $1.5N \cdot m \pm 0.5N \cdot m$ ($15 \pm 0.5kgf \cdot cm$)
 $\phi 5$ ネジ： $3.0N \cdot m \pm 0.5N \cdot m$ ($30 \pm 0.5kgf \cdot cm$)
- レベルカバーは下空き117mm専用です。下空きが117mm以外の場合は、同梱のレベルカバーは取付けないでください。レベルカバーの切断面でケガをするおそれがあります。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ネジにゆるみがないか確認してください。
- 埋め込み基準線より深く埋め込む場合は、GLから20mmの高さに水抜き孔を開けなおしてください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し、破裂するおそれがあります。

お願い

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
- 作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
- 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
- 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
- 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
- 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
- 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

基礎工事について

注意

- コンクリートまたはモルタルには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固防止剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食するおそれがあります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 柱はブロックに施工しないでください。高尺のため強い風圧を受け、飛散事故のおそれがあります。
- 必ず割栗石を敷いてください。基礎が沈降したり傾いたりすることがあります。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。
- 基礎の大きさ、基礎部の埋込み深さは製品ごとに決まっていますが、現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。

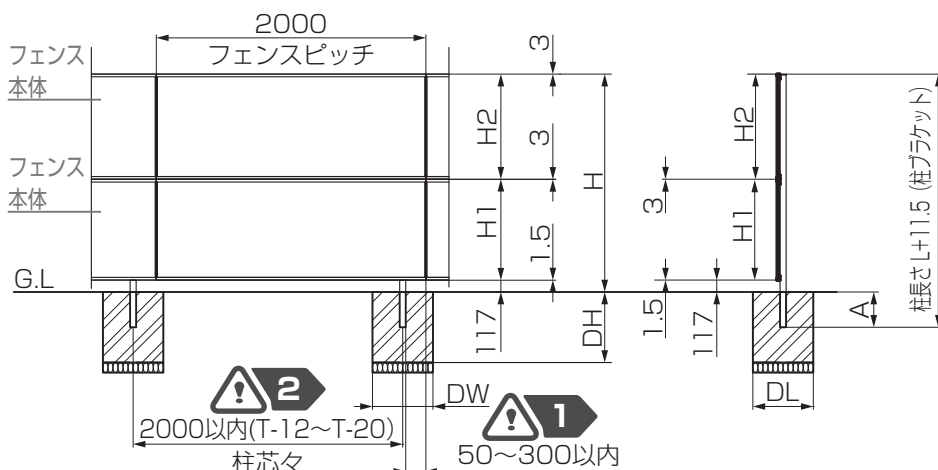
1 基本寸法と各部名称

注意 1

- 柱と本体ジョイント部の間隔は50～300mm以内で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。

注意 2

- 2段柱基本寸法表の柱ピッチを守って施工してください。それ以上離れると製品強度が維持できなくなります。



▲ 2段柱T12～T20の場合 ▲

1 基本寸法と各部名称

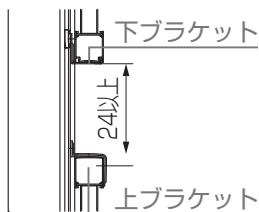
お願い

- 柱上先端に合わせてフェンスを施工してください。2段施工柱（60×60多段柱）は下段のみの施工はできません。

お願い 1

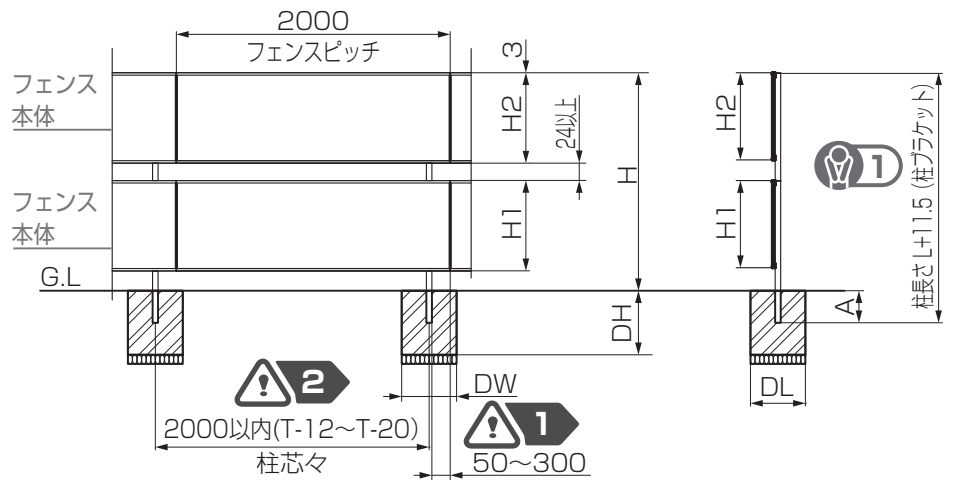
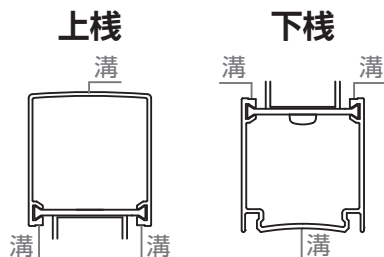
▼ 間を空けて施工する場合 ▼

- 中間ブラケットの代わりに、フェンスAB2段柱55×75用上下ブラケットセットを別途手配し、同梱されている上ブラケットを使用してください。
- 上ブラケットと下ブラケットの干渉を防ぐために、24mm以上間を空けてください。

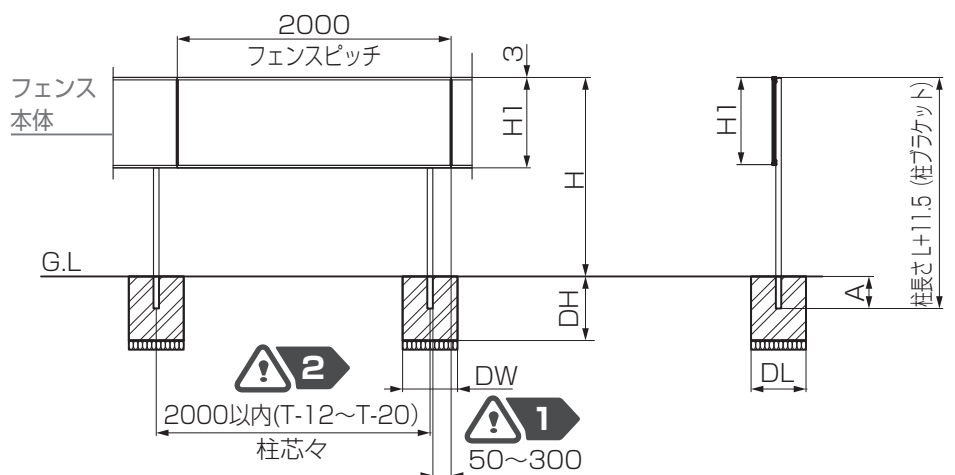


お願い

- V0=34m/秒 柱2mピッチ対応仕様の専用本体は図の部分に溝があります。取付けの際、お間違えのないようご確認ください。



▲ 間を空けて2段施工の場合 ▲



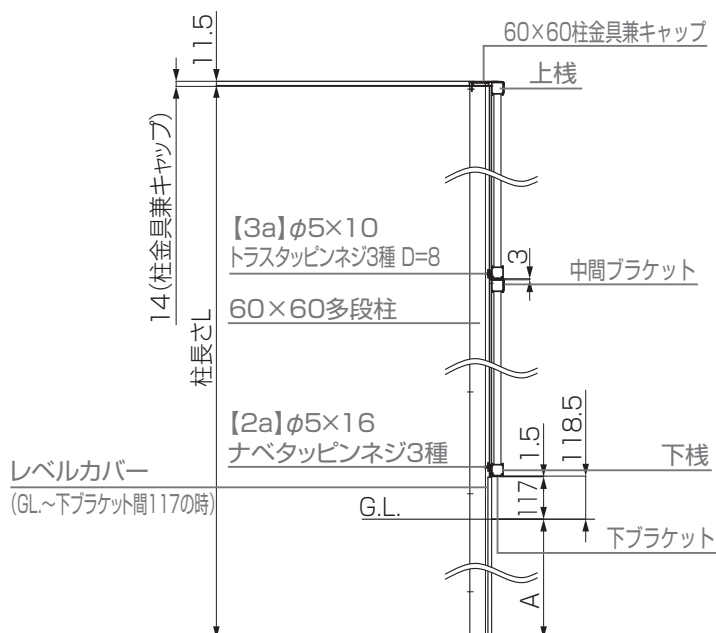
▲ 上段のみ1段施工の場合 ▲

● 2段柱基本寸法表

柱呼称	L	H	H1	H2	柱ピッチ	柱埋込寸法A	DW・DL	DH	
T-12	1543	1201.5	540	540	2000 以内	350	300	600	
T-14	1743	1401.5	540	740					300
T-16	1943	1601.5	540	940			350	300	
			740	740					
T-18	2143	1801.5	540	1140			350	400	700
			740	940					
T-20	2343	2001.5	740	1140	350	400	700		
			940	940					

お願い

- 連続基礎の場合の基礎寸法は、「[2-2 柱の施工](#)」を参照してください。



2 本体の施工

2-1 下ブラケットの取付け

1: 下ブラケットを多段柱に【2a】で仮固定

お願い 1

- ブラケット裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を下ブラケットに向けてください。

2: レベルカバーと多段柱の端部が揃っているか確認

3: 裏板を柱溝にはまるように横にして、仮止めしていた【2a】を固定

お願い 2

- ブラケット裏板を柱の溝に入れてください。
- 【2a】のネジを回した時、裏板が回転し、中間ブラケットの上辺と平行になる位置で固定することを確認してください。

注意 1

- レベルカバーは下空き117mm専用です。下空きが117mm以外の場合は、同梱のレベルカバーは取付けないでください。レベルカバーの切断面でケガをするおそれがあります。

▼ 上段のみ1段施工する場合、間を空けて2段施工する場合の上段フェンス、下段フェンスを任意の位置に施工する場合 ▼

4: 下ブラケット取付位置にφ5.0の孔加工

補足 1

- 下ブラケット取付ねじの逃げ孔になります。

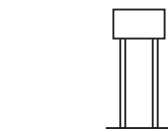
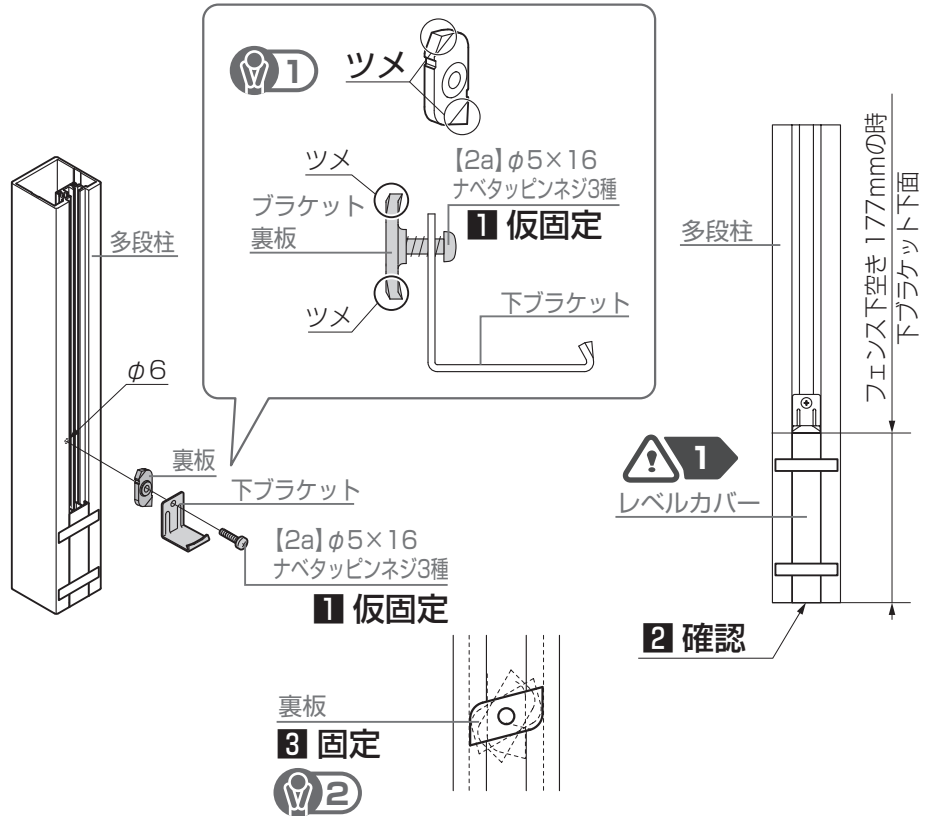
お願い

▼ 間を空けて2段施工の場合 ▼

- 下段フェンスを取付けるためには55×75用の上下ブラケットセットが必要になります。

お願い 3

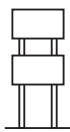
- 柱金具兼キャップについては **2-5 柱金具兼キャップの取付け** を参照してください。



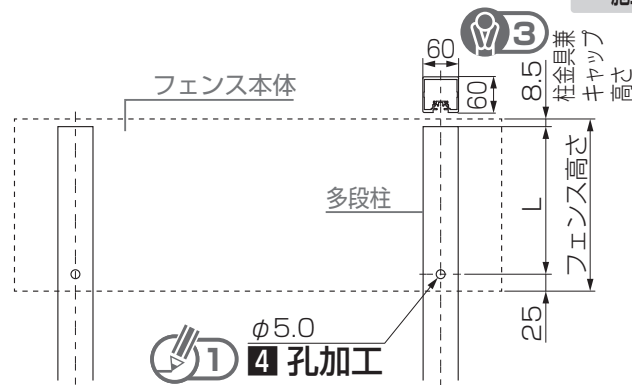
▲ 上段のみ1段施工の場合 ▲



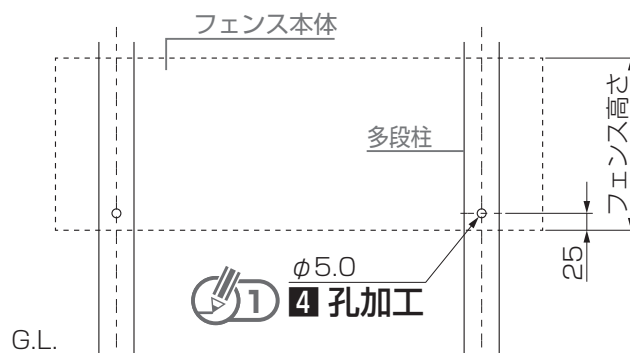
▲ 間を空けて2段施工の場合 ▲



▲ 下段フェンスを任意の位置に施工の場合 ▲



▲ 上段のみ1段施工する場合、間を空けて2段施工する場合の上段フェンス ▲



▲ 下段フェンスを任意の位置に施工する場合 ▲

フェンス高さ	L
T6	506.5
T8	706.5
T10	906.5
T12	1106.5

2 本体の施工

2-2 柱の施工

1: 柱をコンクリートで固定

注意 1

- 必ず割栗石を敷いてください。基礎が沈降したり傾いたりすることがあります。

注意

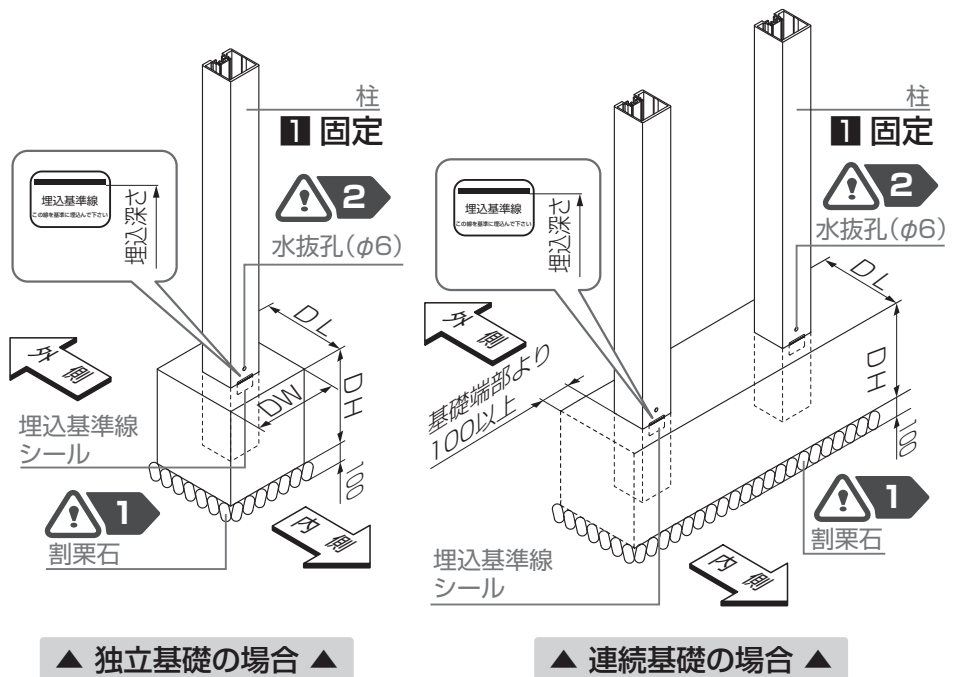
- 柱はブロックに施工しないでください。高尺のため強い風圧を受け、飛散事故のおそれがあります。

お願い

- 埋込みは、「●2段柱基礎寸法表」を参照して行ってください。

注意 2

- 埋め込み基準線より深く埋め込む場合は、GLから20mmの高さに水抜き孔を開けなおしてください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し、破裂するおそれがあります。



●2段柱基礎寸法表

柱呼称	独立基礎の場合			連続基礎の場合	
	DL	DW	DH	DL	DH
T-12	300	300	600	300	600
T-14	300	300	650	300	650
T-16	300	300	700	300	700
T-18	400	400	700	300	700
T-20	400	400	700	300	700

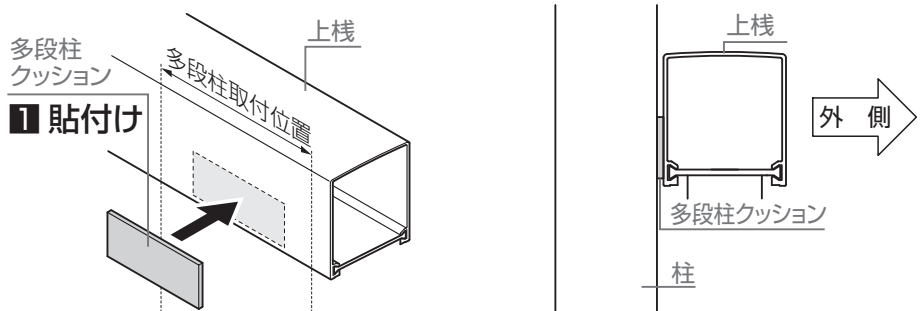
2-3 多段柱クッション

※フェンスのズレ防止のクッションです。

1: 多段柱クッションを上棧に貼付け

お願い

- フェンスを柱に取付けた際に、多段柱クッションが柱で隠れるように貼ってください。



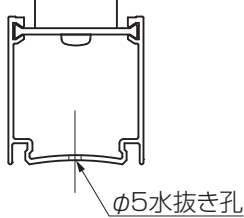
2 本体の施工

2-4 フェンス本体の取付け

1: フェンス本体の下棧の溝に下ブラケットのツメが入るように取付け

お願い

- 水が抜けにくい場合はフェンス本体の中心付近の位置にφ5の水抜き孔をあけてください。



2: 中間ブラケットとブラケット裏板を【3a】で仮組み

お願い 1

- ブラケット裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を中間ブラケットに向けてください。

3: 仮組みした中間ブラケットを、上棧に上から押しつけながら柱に【3a】で固定

お願い 2

- ブラケット裏板を柱の溝に入れてください。

裏板

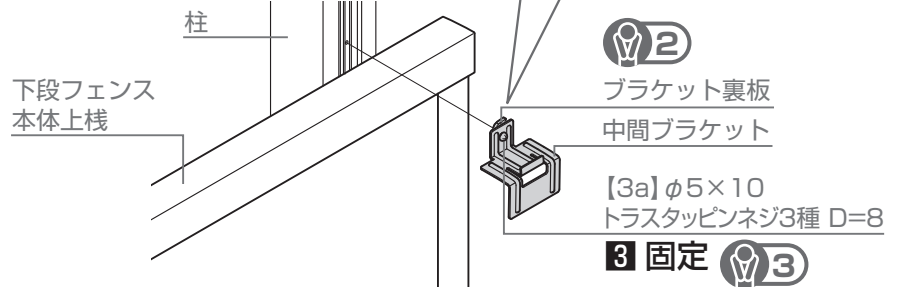
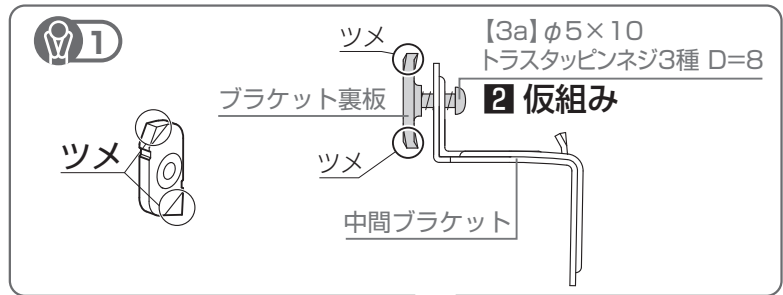
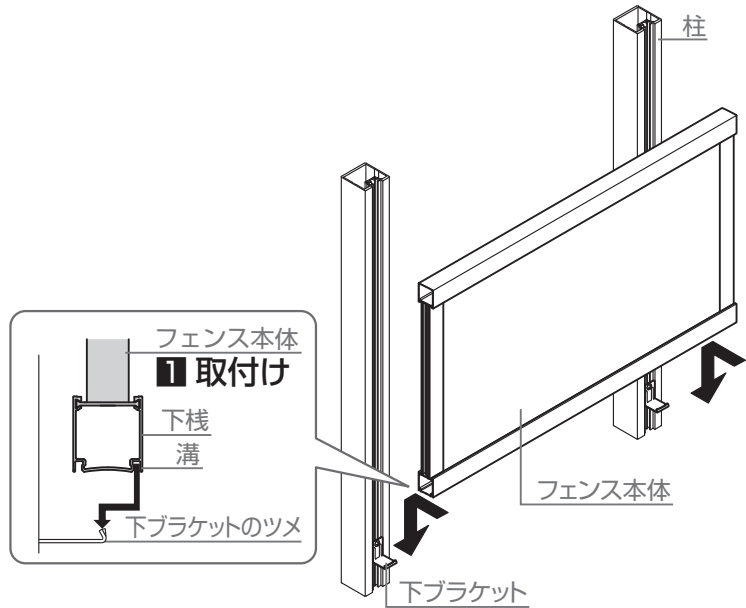
お願い 3

- 【3a】のネジを回した時、裏板が回転し、中間ブラケットの上辺と平行になる位置で固定することを確認してください。

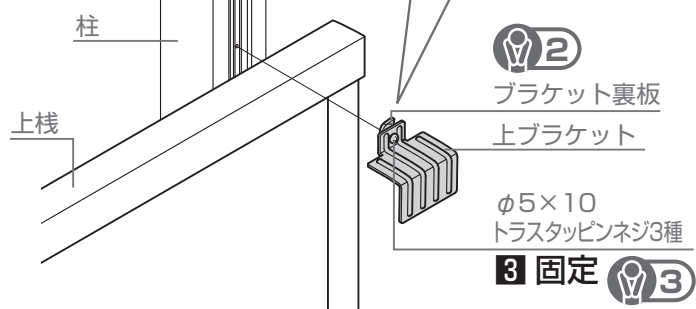
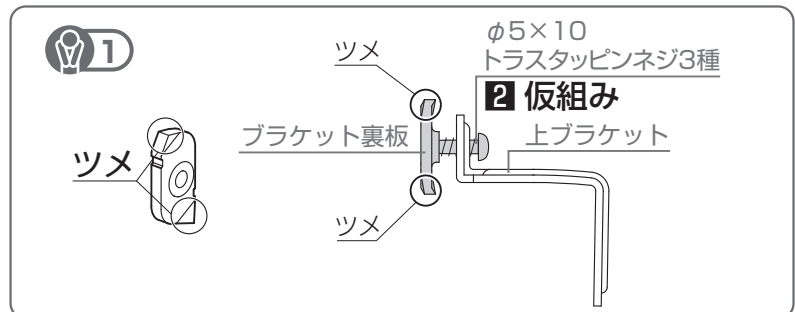
お願い

▼ 間をあけて施工する場合 ▼

- 中間ブラケットの代わりに、フェンスAB2段柱55×75用上下ブラケットセットを別途手配し、同梱されている上ブラケットを使用してください。



▼ 間をあけて施工する場合の下段フェンスの上ブラケット ▼



2 本体の施工

2-4 フェンス本体の取付け

つづき

4: すきま隠し材を上棧に貼付け

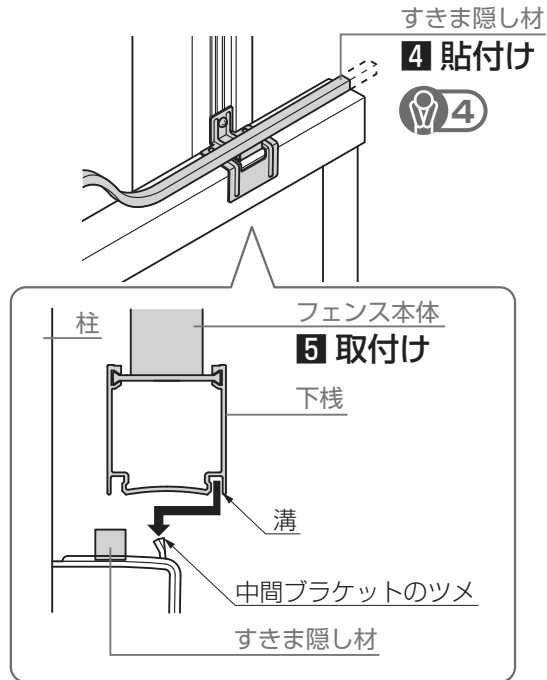
お願い 4

- すきま隠し材は上段フェンスを設置する前に取付けてください。
- すきま隠し材を貼付け後、上棧の端部に合わせてはみ出した部分を切断してください。

5: 上段フェンスの下棧の溝に中間ブラケットのツメが入るように取付け

お願い

- 一度ツメが下棧の溝に入ると抜けづらくなるため、しっかりと位置を確認してフェンス本体を取付けてください。
- フェンス本体を外す際は下棧小口面を横方向からゴムハンマー等で叩いて下ブラケットのツメを外し、フェンス本体を持ち上げて取り外してください。



2-5 補強金具の取付け

1: 本体下棧にφ8の孔加工

2: 1の下孔にインプルナットを挿入

補足

- タブを手前に引き、ナットの凸部を下孔に合わせてタブを下方に折り曲げます。

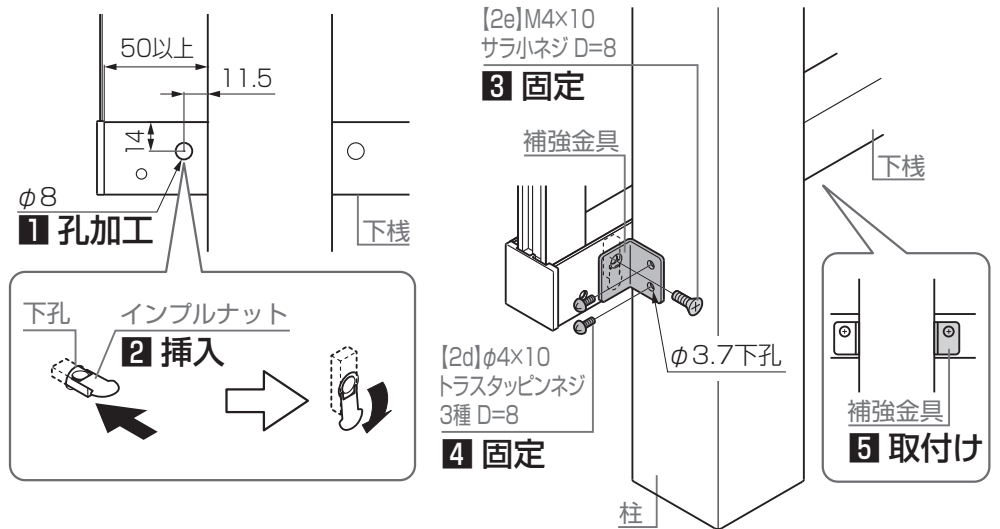
3: 補強金具をあてがい、本体下棧側に【2e】で固定

補足

- 補強金具には右用・左用があります。

4: 補強金具の孔をガイドにしてφ3.7の下孔(2カ所)を柱に加工し、【2d】で固定

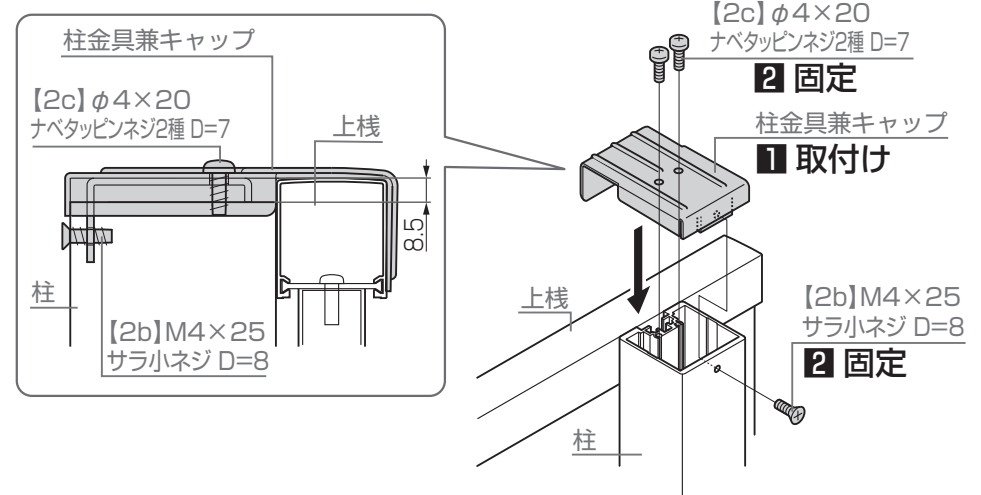
5: 反対側にも同様に補強金具を取付け



2-6 柱金具兼キャップの取付け

1: 柱金具兼キャップを柱と上棧に取付け

2: 柱金具兼キャップを柱に【2b】、【2c】で固定



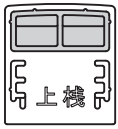
2 本体の施工

2-7 ストレート継手の取付け ※フェンスを連棟する場合

①: 上下棧に、各ストレート継手を差込み【4a】で固定

お願い ①

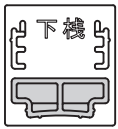
● 端部キャップとストレート継手は、上棧用と下棧用で差し込む部分の形状が異なります。



下棧用と形状が異なる部分

上棧

▲ 上棧の場合 ▲

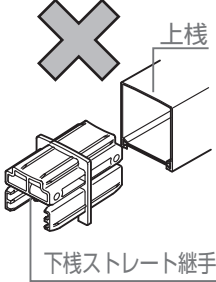
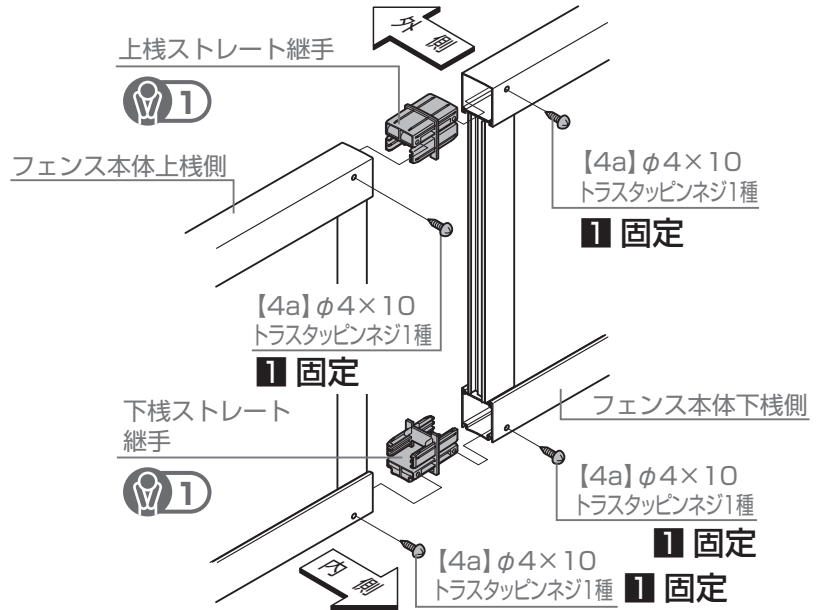


上棧用と形状が異なる部分

下棧







▲ 下棧の場合 ▲

上棧に上棧ストレート継手、下棧に下棧ストレート継手を取付けてください。間違えて取付けないようにお願いします。

梱包明細表

【1】 2段柱 60×60			
名称	略 図	員 数	
柱		1	
【2】 上下ブラケットセット			
名称	略 図	員 数	
60×60柱金具兼キャップ		1	
下ブラケット		1	
裏板		1	
多段柱クッション		1	
補強金具左		2	
補強金具右		2	
インプラナット		4	
【2a】φ5×16ナベタッピンネジ3種		1	
【2b】M4×25サラ小ネジ D=8		1	
【2c】φ4×20ナベタッピンネジ2種 D=7		2	
【2d】φ4×10トラスタッピンネジ3種 D=8		8	
【2e】M4×10サラ小ネジ D=8		4	
取付説明書	—	1	

【3】 中間ブラケットセット			
名称	略 図	員 数	
中間ブラケット		1	
裏板		1	
すきま隠し材		2	
【3a】φ5×10トラスタッピンネジ3種 D=8		1	
【4】 ストレート継手			
名称	略 図	員 数	
上棧ストレート継手		1	
下棧ストレート継手		1	
【4a】φ4×10トラスタッピンネジ1種		4	

チェックリスト

※下記項目は重要事項ですので必ず点検してください。
● 水抜き孔、補強金具の取り付け

No.	ページ	チェック内容	
1	5	水抜き孔は塞がっていませんか。または追加加工されていますか。	<input type="checkbox"/>
2	7	補強金具は柱1本に2個ずつ、本体下棧に取りついていますか。	<input type="checkbox"/>

取説コード

EXM-108

JZZ638698A
202305_1049
202307A_1049